

支えあって ふれ合って…

絆の杜

社会福祉法人 光道園

No. 38

2013. December



特集スポーツ

- ・ ナイスラン! 菊花マラソン
- ・ 祝準優勝 老施協ゲートボール大会
- ・ 光が丘ワークセンターダンスクラブ
「チームミッキー」
- ・ 第三光が丘ハウス 運動会
- ・ 全国盲学校グランドソフトボール大会

第34回全国盲重複障害者
福祉施設研究大会 etc

手づくり工房 フ・クレール
& のぞみ工房 陶華星

ナイスラン!! 菊花マラソン見事完走!!

十一月三日、ライフトレーニングセンターさらら館の田辺さんと私は越前市で開かれた菊花マラソンに参加し、完走しました。

きっかけは、毎年つつじマラソンに参加し、今年も完走した後、職員から「秋に菊花マラソンがあるので、出てみてはどうか」と言われ、つつじマラソンに向けて練習していたのを、目標を菊花マラソンに変え、練習を継続しました。練習というのは、晴れていれば園の外周を三・五周、雨天であれば園の中を十五分ほど走るといった内容です。

練習での田辺さんは練習の声掛けに行くといつも「はいー」と答え、私の肩に抱きかかるとも良い笑顔で走り、私が「楽しいですか。」と尋ねると「はいー楽しいんやー」と元気よく答えます。そんな田辺さんを見てみると、走ることが本当に好きで一緒に走っている私まで楽しくなり自然と笑顔になって

いました。

そして迎えた本番当日、天気予報が雨にもかかわらず天候、気温に恵まれたいへん走りやすい環境でした。菊花マラソンでは、チャレンジの部(2切)に出場しました。スタート前、田辺さんは少し曇った表情をしていましたが、スタートのピストルが鳴り、走り出すとたちまち笑顔になり「田辺さん楽しいですか。」と尋ねるといつものように元気よく「はいー楽しいんやー」と答えられ、沿道からの声援にも力強く「はいー」と答えたり、声援が田辺さんに向けたものでなくても元気よく「はいー」と答えていました。また、ゴール近くで「もうすぐでゴールだよ。頑張れー」といった声援にも「はいー」と力強く答えられ、田辺さんの走る速さがスピードアップし、足取りも力強くなりました。途中、疲れたのが笑顔が少なくなるもラストスパートをかけ

てからはたちまち笑顔になり楽しんで走っている姿を見て、田辺さんは、心の底からマラソンを楽しみ、菊花マラソンの雰囲気を楽しんでいるように感じました。田辺さんの伴走として一緒に走っていた私も沿道の声援を受けながら走って楽しく感じました。そして田辺さんと私は菊花マラソンの2kmのコースを十八分で完走を果たして、田辺さんはいつもの練習の時よりもいい走りをしていましたように感じました。

視覚障がい田辺さんにとって、スタート前の曇った表情は、大勢の人がいる中で不安に思っていたのかもしれないが、走り出すとたちまち笑顔になるのを見て本当に走るのが好きで、声援を受けることで普段以上の力を発揮することが出来るのだと感じ、また来年も菊花マラソンに出場できたらと思いました。

文 総務一課 内倉優太
撮影 総務一課 山田朋久

絆の杜 特集スポーツ

12 December
2013

No.38

- | | | | |
|---|---------------------------|----|-------------------------------|
| 2 | ナイスラン!! 菊花マラソン見事完走!! | 7 | 第34回 全国盲重複障害者福祉施設研究大会(福井大会)開催 |
| 3 | 祝準優勝 第31回福井県老協協ゲートボール大会 | 8 | 文化祭実演を終えて |
| 4 | 光が丘ワークセンターダンスクラブ「チームミッキー」 | 9 | 楽しみにしていた学習会 |
| 5 | 第三光が丘ハウス 運動会 | 10 | 全国盲ろう者大会に参加して |
| 6 | 全国盲学校グランドソフトボール大会 | 11 | 重複障害講座/佐々木氏 盲ろうの竹細工師 |
| | | 12 | 手づくり工房 フ・クレール のぞみ工房 陶華屋 |

祝準優勝 第31回福井県老協ゲートボール大会

平成二十五年十月一日、第三十
一回福井県老人福祉施設協議会
ゲートボール大会がすかつとラン
ド九頭竜にて開催されました。

参加チームは六施設七チーム。
昨年と比べ一チーム減り、年々参
加チーム数が減ってきていること
を寂しく感じます。

我が光が丘ハウスチームは、当
日まで毎週ではありませんが午後
二時から敷地内のゲートボール場
で練習をしてきました。練習の時
期は暑い時期でしたが、利用者の
方は真剣に練習をされていまし
た。

試合の内容ですが、今年は抽選
で対戦チームを決め、最初は七
チームでリーグ戦を行いました。
光が丘ハウスチームは初戦でなん
とパーフェクトまで、あと一点の
二十四得点で勝利しました。これ
には利用者の方も職員もビックリ
でした。まさに練習の成果が結果
にでました。この勢いで二試合目
にも臨み、見事に勝利しました。

次は決勝トーナメントです。決

勝トーナメントは二チームで戦
い、勝利した方が優勝です。さら
なる勢いで勝利を勝ち取りたかつ
たのですが、結果は惜しくも準優
勝。準優勝は今大会で三回目です。
もう一步のところで優勝を勝ち取
ることはできませんでした。大会
中は皆さん勝負師の顔、目つきで
したが、終わった後はとてもいい
顔をしていました。今大会は新し
い利用者の方も加わり、今までと
は違った新しい気持ちで大会に臨
むことが出来ました。

ゲートボール大会に参加するの
は光が丘ハウス主催の大会と福井
県老協主催の大会の二つです
が、利用者の方が少しでも施設以
外の場所での自分の力を発揮出来る
場所があると、光道園での生活が
楽しめるのではないかと思います。

最後に、今大会に向けてご協力
頂いたすべての方に感謝申し上げ
ます。ありがとうございます。

文、撮影 高齢福祉一課 赤星東吾



光が丘ワークセンター ダンスクラブ

『チームミッキー』

光が丘ワークセンターでは、七月からダンスクラブが発足しました。メンバーは、ダンス歴十数年のベテラン村上さんと、踊る事が大好きな山本さんです。村上さんはエアロビクス、よさこいなど、過去に色々やってきて、今年は何を踊ろうかと、やる気十分でした。ダンスの選曲では、「流行っているみんなが盛り上げられるような曲にしたい!」という希望もあり、モモクロ、きやりーばみゆばみゆ、AKB48などがでてきました。当時ファンモンが好きだったように、ファンモンの曲をやる事になりました。実際やってみると、曲の時間が長く、その分振付も考えなければならぬし、覚えられるかどうか、体力がもつかどうかの心配が出てきました。

そんな時、同じく悩んでいた村上さんが、これならできるんじゃないかと、あるCDを持ってきたのです。それが、今回の文化祭で実演した「ミッキーマウスマーチ」でした。曲の時間も調度良く、ノリもよく、何より、誰もが知って

いて盛り上げられるという、当初の目的に合っていました。村上さん自身は、毎年行く程デイズニードが大好きで、その曲で踊れるという事で、とても張り切っていました。そして、ミッキーマウスの曲で踊る事が決まってから、一緒に踊る職員以外に、プロデューサー兼コーチが付きました。振付

アドバイスをしたりしていました。練習中に山本さんが、踊れなくてへこんでいる時も、村上さんの方から、「一緒にがんばろう」「もうちょっと振りを大きくした方がカッコいいよ」などの声掛けをしていました。山本さんが、本番でちゃんと踊れるのか、不安だと言っていたにも関わらず、怒る事なく、



や小道具など、全てプロデュースしてくれた、厳しいコーチの指導のもと、毎週練習を行いました。十一月に入ってから、本番前という事もあり、緊張しながら毎日練習に励みました。村上さんは、振付を覚えるにつれ、だんだん表情も良くなってきて、山本さんに、

励まし、一緒に頑張るダンスをしようという姿がみられました。そして迎えた本番当日。緊張はするものの、今まで練習をやってきたという自信もあり、二人とも落ち着いていました。村上さんの動きは、職員よりキビキビしているとても良く、山本さんも一生懸命

命を懸けていました。ダンスを始めた当初は、挫折や苦労など色々あり、一時はどうなる事かと思いましたが、周りの職員の協力のもと、そして、名コーチのおかげで無事成功する事が出来ました。そして何より、最後まで頑張った村上さんと山本さんに、拍手を送りたいと思います。



スポーツの秋

第三光が丘ハウス運動会

第三光が丘ハウス二階では、年に二回、六月と十月に行事の一つとしてミニ運動会を開催しています。今回は十月十七日に行われたミニ運動会の様子を紹介します。

ミニ運動会は開会式で始まります。杉本施設長の開会の挨拶の後、佐々木作業療法士による元気いっぱいラジオ体操、そして利用者の方の代表による選手宣誓と続きます。選手宣誓は毎回違う方をお願いしますが、毎回それぞれの方の頑張ろうという気持ち伝わってきて皆さんの士気をさらに上げてくださいます。そして、いよいよ競技が始まります。

まず始めの競技は各ユニットによる応援合戦です。これは六月のミニ運動会の反省



で各ユニット対抗応援合戦をしたらどうか、との提案を受けて行ってみました。二階フロアは各ユニットが色別に分かれていますので、各ユニットの個性が出てとても楽しい応援合戦になりました。あるユニットでは応援用の旗を作って皆で振って盛り上げてくれたり、あるユニットでは替え歌を大声で歌って楽しませてくれました。鈴やタンバリン、鳴子を使ったのでいつもと違う音もホール中に広がり皆に一体感ができたように思いました。

次は借り物競走です。札を引いて書いてある物を探してそれを持ってゴールします。アフロヘアが似合いますすぎた方、素敵なレイをつけてハワイ気分の方、様々な借り物競走後の姿が見られて、失礼と思いきながらも利用者の方よりも職員の方が大笑いしながらの競技になりました。

しかし、笑ってばかりもいられません。これが点数になって優勝が決まるので、皆さん必死です。

そして最後の競技はパン食い競争です。嬉しそうに取る人、一生懸命な人、いつもとは違う利用者の方の一面が垣間見られ職員にとっても嬉しい時間になりました。



絶対に負けられない戦いがそこにはある

全国盲学校グラウンドソフトボール大会

東北楽天ゴールデンイーグルスの日本シリーズ優勝で終わった今年のプロ野球。私は、四歳の息子との熾烈なチャンネル争いを制し、あの感動の場面を味わう事ができました。真剣勝負の緊迫感に、思わず入り込んでしまいました。(息子へ。こんな父を許してください。)

幸運にも、八月に、石川県で開催された「全国盲学校グラウンドソフトボール大会」にて、同様の体験をしました。

真夏日の続いた、八月下旬。私たちは、石川県の野球場にいました。野球場にいる理由は、「俺たちの夏」の為に来た訳ではありません。

紹介が遅れました。私たちは、「福井国体障がい者スポーツ推進委員



全盲選手のプレー中は
しずかに！
お願いします。



会です。平成三十年の福井国体に合わせて開催される全国障害者スポーツ大会でのグラウンドソフトボールでの選手派遣・障がい者スポーツへの取り組みという大きな目標を掲げ、今年度、発足された委員会です。

今回の試合見学の大きな目的は、委員のほとんどが、グラウンドソフトボール未経験者の為、全国レベルの試合を見学し、ルールなど実践を通して、理解する事が目的でした。

私たちが、見学した日は、予選ブロックの試合で、各地区を勝ち抜いてきた学校同士のプライドがぶつかりあう、本当に素晴らしい試合ばかりでした。グラウンドソフトボールは、「静かな野球」と言わ

れています。プレー中は、声援などはほとんどありません。しかし、プレー一つ一つの緊迫感が、観戦する側にも伝わり、思わず自分がプレーヤーとして試合に参加しているような、そんな気持ちになりました。

観戦を終えて、当初の目的だった、ルールについては、充分理解する事が出来ました。しかし、大きな宿題をもらった気がしました。宿題の内容は、委員、一人ひとり違つかも知れません。

自分に与えられた宿題は、「この試合を見て何を感じたか？」スポーツは、真剣に取り組みむからこそ生まれる達成感、連帯感、そして勝利を得たものだけが知る感動があると思います。今の自分には、すべてにおいて「まだまだ」、「平成三十年まで、まだまだだから…」という「甘えと言いつい」があります。

「まだ五年後か？もう五年しかないのか？」考え次第で、取り組み方も大きく変わってきます。平



成三十年には、「絶対に負けられない戦い」が待っています。自分がこの試合で感じた感動を、多くの方に知っていただけるように。大きな目標にむかって、まずは一歩進めた気がしました。選手

の皆さん、宿題ありがとうございます。答え合わせは、「平成三十年」にお願い致します。

※グラウンドソフトボールとは
1チーム10名で競技し、男女の区別はない。弱視の選手と全盲の選手で構成され、ピッチャーを含む4名以上は全盲の選手が必ず出場。その他は弱視の選手。ソフトボールのルールを基本とし、ハンドボールに似たボールを使用。ピッチャーはキャッチャーの手を叩く音を頼りにボールを転がして投球する。全盲のバッターはボールの転がる音を頼りにバットで打つ。NHKではラジオで、全国大会の様子が放送されている。

企画調整室 青山直人
撮影 福井国体障がい者
スポーツ推進委員会

第34回全国盲重複障害者 福祉施設研究大会(福井大会)が開催

平成二十五年度全国盲重複障害者福祉施設研究大会が、十月十七日から十八日の二日間の日程で福井市の「ユアーズホテルフクイ」にて開催されました。

昭和五十五年、光道園を含めた全国の盲重複障害者専門施設六施設で発足した全国盲重複障害者福祉施設研究協議会が、毎年開催している全国大会も今年で三十四回目となり、「個別支援の向上を目指して」をテーマに今年も百四十名余りの施設職員、ご家族、関係者の方々が参加されました。

開会式では、藤本理事長が主管施設を代表し開会挨拶、ご来賓の福井県障害福祉部北企画幹、県社協五十嵐専務理事にもご挨拶を頂きました。続いて川辺会長(東京光の家)が基調報告として、盲重複の歴史と協議会の直近活動内容の中から、特に来年四月に創設される障害支援区分に向けての取り組み等について報告されました。また行政報告では、厚生労働省障害福祉課長補佐高木憲司氏よ

り、「障害福祉施策の動向」と題して、

本年四月施行に至った総合支援法



協議会
川辺会長

までの施策の流れや概要について説明があり、特に障害支援区分の創設についての見直し案や、法施行後三年を目途とする検討規程の内容について詳しく解説を頂きました。

「施設入所支援の実際」、



光道園
藤本理事長

「日中活動の実際」、「地域生活支

援・相談支援の実際」をテーマに分かれ



厚生労働省
高木憲司氏

た分科会では、それぞれ施設からの

実践発表をもとに熱心な討議がなされ、個人の思いや、その人らしさを支える個別支援の方向性を共有することが出来ました。さらに家族会(分科会)では、全国家族会の事業報告の後、小グループに分かれての討議が行われ家族



福井大学
松木健一先生

の高齢化・親亡き後の問題・後見

人制度の活用や医療との連携などについて各グループから活発な意見が出されました。

また、二日目は記念講演として福井大学教職大学院教授の松木健一先生の「施設職員の育ちを支援するために」と題した講演があり、それぞれ施設が、共有された高いビジョンを保ち続ける為に必要、組織としての文化伝統づくりについて話されました。創始者の思いを語り合い、昔やっていたことを今に置き換え、常に時代を翻訳する文化など、職員同士が互いに共感し、ビジョンを共有することの大切さを改めて認識させていただきました。ただ、これが出来ました。

大会終了後には七十名近い方々が光道園の施設見学をして頂き、貴重なご意見もたくさん頂きました。

ご協力頂いたご家族・関係者皆様になんか感謝を申し上げます。

文 錦江事業所長 江守 勝
撮影 総務課 榮 晃彦

文化祭 実演を終えて

今年の文化祭は、
十一月七日・八日の
両日、光道園鯖江事業
所で行われました。初日

の天気予報は悪く竜巻注意報も
発令されたほどでしたが、利用者
の方の移動にはさほど影響がな
く、実演中は天気が荒れ、移動時
には雨が止み晴れ間も見られると
いった感じで、二日目はポカポカ
陽気で、まるでお天道様に見守ら
れているかのような文化祭とし
た。

実演の内容はミックバラードの
演奏に始まり、太鼓・リズム・音楽・
ピアノ・琴・ダンス・カラオケ・
民謡・ギター、など盛りだくさん
で、それぞれの課で日々練習を重
ねてきた成果を十分に発揮され、
会場も熱気に包まれていました。
また、朝日中学校一年生三十名
の皆さんが福祉学習の一環として
友情出演してください、歌とダン
スを披露してくださいました。そ
の後はお茶分けのお手伝いもして
くださり利用者の方と交流も深め

ていただけたようです。

さて、今年のテーマは『お・も・
て・な・しく・輝く笑顔…今で
しょー』と決めさせて頂きまし
た。これは各課より持ち寄り、良
さそうなフレーズをつなげただけ
なのですが、私自身、最初から最
後まで文化祭に携わり、このテー
マがとてもピッタリ合うと改めて
感じました。というのには、実演さ
れている方が一生懸命されるのは
勿論ですが、見ている方・聞いて
いる方も一生懸命で、歌にあわせ
て手拍子したり、実演が終われば
精一杯拍手したりと、相手の方を
自分が出来る限りもてなそうとし
ている気持ちが伝わってきました。

また、普段では見ることの出来
ない笑顔をあちこちで見ることが
できたと、たくさん職員から聞
きました。これも文化祭会場の雰
囲気による効果ではないかと思ひ
ます。その時・その場所・その雰
囲気しか出来ない輝く笑顔をた
くさん見せていただき、私も清々

しい思いがしました。

もう一つ印象に残ったのが、実
演の合間に利用者の方にマイクを
向けたときの反応でした。次から
次へ発言され、掛け合いが始まり、
笑いが起こったのです。この場面
を見たとき、文化祭は利用者の方
同士の交流の場でもあるのだなど
感じました。考えてみれば鯖江事
業所と朝日事業所の皆様が一堂に
会するのは文化祭しかありません
から、楽しみにされているのも当
然だと思ひます。この交流の場を
大事にしなければいけないと感じ
ました。

最後になりましたが、文化祭の
成功の一つの要因に各課の日々の
努力で感染症を発症させなかつた
ことも挙げられます。ご協力いた
だき本当にありがとうございます。
た。

追加で提案があります。文化祭
の永遠のテーマについてです。
『お・も・て・な・しく・輝く笑
顔…ずっとでしょー』いかが
でしょうか？



楽しみにしていた学習会

光道園では、夏休みに公益財団法人 重複障害教育研究所と障害児基礎教育研究会の先生方をお招きし、学習会を開くことが恒例となつていきます。「課題学習に参加しませんか？」と尋ねると、たくさんの方の方が「行きたい」、「やりたい」と手を挙げられました。普段行っている棒挿しだけではなく、三角・四角・丸の形のはめ板を使ったものや玉の重さを判別するもの、目に見える利用者の方には書き物を中心としたものなど、様々な学習がありました。

自分の順番が来るまで待っている間、「緊張するわ〜」とソワソワしている利用者の方も多く、「お腹痛い。出来ない。」と不安を口に出す利用者の方もいました。しかし、いざ自分の番が回ってくる、緊張しているというのが嘘のように、笑顔で学習をする姿が見られました。

普段学習に参加されない方にもたくさん声をかけました。Iさんは七十代の女性で、「学習したことはないわ。出来るかな。」と最初は不安を口に出していました。不安気な表情をしながら取り組んだ、型にはめ込む学習。形の大きさや形を手でよく確かめ、初めてとは思えない程、正確にはめこんでいました。「すごいです！すばらしい！」と先生に褒められると、得意気な表情をするIさん、嬉しそうに笑顔でした。他の学習を勧められると、「いいよ、するよ」とノリノリな様子で、棒挿しや玉の重さを判別する学習にも挑戦しました。先生とお喋りする余裕もあり、「東京から来たんけく遠いな〜」と終始お喋りをしながら取り組まれていました。

また、援護一課では、第二・四火曜日に測辺氏による課題学習を行っています。太さの違う二種類の棒を大きさの同じ穴に五本ずつ挿すという課題学習をしています。手で板や棒を触り、穴の位置や大きさ、棒の太さなどを確かめながら行わねばなりません。課題学習の意味を理解するのは私にとって難しいですが、測辺氏のアドバイスを受けながら学習を行うことによって、達成に少し近づいていくことが出来ます。

課題学習に挑戦しながら、その中で判断をしたり考える力を身につけることで、日常生活の中で活かされるものが出来れば素晴らしいと思います。「学習」と聞くと、学ぶ、修習、習い事、など少し固いイメージが思い浮かび、楽しいイメージに繋がることの方が少ない様に感じます。しかし、学習を笑顔で取り組んでいる利用者の方が多く、「出来た！」「簡単やわ〜」「次の学習いつ？」との声がよく聞かれます。職員にとっても、職員と利用者が一対一でゆっくりかわることの出来る大切な時間です。何気ないお喋りをしたり、達成した喜びを一緒に分かち合うことが出来る学習の時間を、これからも大切にしていきたいと思えます。



文 援護一課 月田汐美
撮影 企画調整室 加藤貴子



全国盲ろう者大会に 参加して

平成二十五年八月二十三日から二十五日 第二十二回全国盲ろう者大会（千葉県幕張メッセ）に参加しました。利用者七名、職員四名、通訳介助員四名、療護二課でも過去最高の参加人数になりました。

大会全体でも九百四十九名（内盲ろう者二百六十二名）の過去最高の参加人数でした。会場ではパソコン通訳、手書き、触手話、手話、指点字、音声通訳、弱視手話などあらゆるコミュニケーションツールが飛び交って一人ひとりに応じた通訳をしています。私たちは、まるで別の国にいるような錯覚に陥ります。この大会では、盲ろう者一人に二人の通訳介助員が付きます。日頃は、なかなか通訳しきれない、視覚で感じる事の出来る細やかなあらゆる情報を得る事が出来、素晴らしい最高の世界を体験できるのです。

光道園の利用者が、在宅の盲ろう者と共にこの大会に参加する事に意義があり、一人ひとり個人として社会人としての姿があるので

す。
翌日の社会見学は、なんとディズニーシーでした。一番の思い出は突然の大放水。夏の炎天下、大放水ショーの始まりです。全身びしょ濡れになりました。笑うやら泣きたくなるような初体験。一生経験できない思わぬ経験でしたが園に帰ってから楽しい土産話になりました。また身近にミッキー、ミニーに直接何度も触れ合うこともでき素晴らしい体験が数多くできました。

来年は、より多くの利用者や職員が大会に参加でき、貴重な体験が出来ることを願っています。

文 療護二課 内藤映子
撮影 内藤映子他

「重複障害講座」

を通して思うこと

光道園も早や五十六年という歳月を迎え、その中で三十年以上も前から毎年行われていたのがこの「重複障害講座」です。各課から就職してまた年数の浅い比較的若い職員一名とその担当利用者の方一名が選ばれ、「日頃対応が難しくどうしていいかわからない」「今こう考えて接しているがこれが本当に利用者の方にとって良いのか」など講師の方からアドバイスを頂きながら一年間進めていきます。講座のアドバイザーを務めて頂くのは福井大学教職大学院教授 松木健一先生を中心に同大学院講師 笹原未来先生、前副園長 洲辺氏、荒木園長、江守所長の方々です。交代でご出席頂き皆話し合いながら和やかな雰囲気の中、毎回色々助言を頂きその中で新たな気持ちも沢山あります。年七回講座が

ある中で先日早や第五回目の講座が行われました。各課から集まった九名の職員もいよいよ今年度のまとめに向けてだいぶ発表する内容も文章化されてきました。それだけではなく今迄の講座に参加してアドバイザーの方からのご意見や他の職員の経過発表などを聞く中とても良い刺激にもなっていることだと思います。「利用者の方が「光道園に来て良かった」「生きていて良かった」と思っていることが大事で、そう思って頂けるようにサポートするのが職員。利用者の方の癖だけに目を向けず今持っている力を発揮してもらえらる事が大切」これは講座の中で頂いた助言の一部です。つい私たちは「仕事の中で「すべき事（業務）」を「自分の仕事」と思いがちですがそれ以上に「相手の思いをわかってあげる事」の方が大事です。来年二月中旬、生活支援事例報告会で今回の講座での取り組み発表があります。そして感動があります。沢山の刺激、新たな気持ち、励み、感じることは人様々ですが、はっきり言える事は必ず自分が変わっていくという事だと思えます。

文 企画調整室長 加藤佳子



盲ろうの竹細工師 佐々木 英二様と作品

盲ろうの竹細工師 佐々木英二さんは竹と向き合いながら一本一本精巧に組み込んでみなさんに喜ばれる製品として作り続けています。

竹製品を越前打ち刃物会館の職員の方の発案により、うるしの色合いや乾燥時間など難しい点を克服してようやく製品化出来るようになりました。福井県の名産品の越前打ち刃物、漆河和田塗り、そして彼の竹製品を組み合わせたコラボレーションで仕上げた製品を是非ご購入ください。ご利用いただければ幸いです。

問い合わせ
ライフトレーニングセンター
さくら館 0778-62-8102



手づくり工房 フ・クレール

ミニサイズ 700円
ビッグサイズ 1300円



手づくり工房 フ・クレールでは、クリスマス近くにドイツ地方で食べられている「シュトーレン」

を国産小麦粉を使い一つ一つ丁寧に形作り焼き上げ、仕上げにブランデーや、ジャム、最後にまっ白のお砂糖でお化粧しています。

クルミやレーズンなどたっぷりに入ったシュトーレンをクリスマス前にご注文ください。

クリスマスプレゼント用のクッキーセットもいろいろ取り揃えております。サンタセット、マグカップセットなどのクッキー詰め合わせを、お歳暮、手土産などにいかがでしょうか。地方発送もいたします。

今年もフ・クレールをご愛顧いただきありがとうございます。

手づくり工房 フ・クレール 〒916-0146 丹生郡越前町朝日1丁目504番地
TEL (0778) 34-8801 FAX (0778) 34-8831

社会福祉法人 光道園

社会福祉法人 光道園 法人本部
鯖江市和田町9-1-1

障害者支援施設 ライトワークセンター
鯖江市和田町9-1-1

障害者支援施設 光が丘ワークセンター
丹生郡越前町朝日22-2-2

障害者支援施設 ライトホープセンター
丹生郡越前町朝日22-3-1

障害者支援施設 ライトトレーニングセンター
鯖江市和田町9-1-1

日中生活介護事業 たねのいえ
鯖江市和田町9-1-1

障害者支援センター こうどうえん
鯖江市和田町9-1-1

養護老人ホーム 第一光が丘ハウス
丹生郡越前町朝日22-7-1

養護(盲)老人ホーム 第二光が丘ハウス
丹生郡越前町朝日22-7-1

特別養護老人ホーム 第三光が丘ハウス
丹生郡越前町朝日22-7-1

通所介護事業所 デイサービスセンターさざんかホール
丹生郡越前町朝日22-7-1

訪問介護事業所 ヘルパーステーションさざんか
丹生郡越前町朝日22-7-1

居宅介護支援事業所 さざんかホール
丹生郡越前町朝日22-7-1

越前町障害者支援センター さざんか
丹生郡越前町朝日22-7-1

一体型共同生活介護事業所 とらいと
丹生郡越前町朝日1-505

就労支援事業所 フ・クレール
丹生郡越前町朝日1-504



のぞみ工房 陶華星



いつも光道園ライトワークセンターの「陶華星」を応援して頂き、誠にありがとうございます。

今回は光道園のオリジナルキャラクター「がおー」の新商品が完成しましたのでご紹介させていただきます。その名も「ミニがおー」と「プチがおー」です。従来の「がおー」と合わせると「親子がおー」になります。こちらの商品はペーパーウェイトとなっております、オ

フィスのデスクに置いておくだけでみんなから注目の的になること間違いなしです。そもそもこの「がおー」は、利用者が夢や希望を持ちながら、陶芸の作業を頑張っている姿がモデルとなっています。働く利用者の夢や希望そのものである「がおー」を是非お買い求めください。

また、来年は午年ということで、陶華星では開運干支「夢午(うま)」の製作の最盛期を迎えています。来年が皆様にとってうま(午)くいく一年になることを祈願して、利用者の皆さんが一つひとつ真心をこめて作成しています。「夢午」は、親子の大小の置物、さらに、赤と黄の二色セットのプチ置物、かわいらしい楊枝入れの4種類をご用意させていただきました。新年のスタートに是非、陶華星の「夢午」を宜しくお願い致します。

のぞみ工房 陶華星 〒916-8585 鯖江市和田町9-1-1 光道園ライトワークセンター内「陶華星」
TEL (0778) 62-8103 FAX (0778) 62-3775